

## 2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 1 月 18 日作成)

小委員会名	中規模木造建築促進のための木材使用量とその環境負荷の検討小委員会	主 査 名：北村俊夫 就任年月：2023 年 4 月
所属本委員会	地球環境委員会	委員長名：横尾昇剛
設 置 期 間	2023 年 4 月～2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地球環境問題への対応として中規模木造建築を推進することによる木材の都市への蓄積を図ることは重要である。そのため、これらの建築物を促進するための中規模木造建築における構法や構造別の木材使用量の関係について検討し、異なることは明らかとなったが、その傾向が明確ではないため、引き続き検討する必要がある。加えて、これらの建物を建てることによる環境負荷についてデータを収集し、その影響を検討することを目的とする。</p> <p>初年度：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・集成材等などを用いて建築された公共建築物などの木材使用量と建築構造の関係など、床面積当たりの木材使用量に関するデータをさらに収集し、まとめる。加えて、木材の環境負荷に関するデータ収集や考え方の整理を進める。</li> </ul>                 2 年度：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた木材使用量とその構法の関係について検討を深め、一般化したものの提案を目指す。加えて、木材環境負荷における建築での扱いについてまとめたものを公表することを目指す。</li> </ul> </p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：北村俊夫 (齋藤木材工業) 幹事：練子祐介 (カナダ林産業審議会)、森拓郎 (広島大学) 委員：青木謙治 (東京大学)、池田充弘 (タネつぶラボ)、入山朋之 (大建工業)、海老澤渉 (三菱地所設計)、小林謙介 (県立広島大学)、古俣寛隆 (北海道立総合研究機構)、菅谷恭浩 (TS コンサルティング)、高村秀紀 (信州大学)、恒次祐子 (東京大学)、中村伸 (日本設計)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2023 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 木材使用量の新たな情報収集の候補として、日本住宅・木材技術センター（住木センター）のデータベース (<a href="https://www.daimoku.jp/msearch/mtatemono.php">https://www.daimoku.jp/msearch/mtatemono.php</a>) を検討した。住木センターのデータベースは骨組みだけではなく、羽柄材や合板も含まれている可能性があるため、当小委員会が求める骨組みの木材使用量を抽出できるかを打診する予定である。</li> <li>2. 木材の環境負荷に関するデータ収集や考え方の整理にあたり、組織設計事務所（日本設計）に施主の代理人である設計の立場からの課題等の話題提供をいただき議論を行った。更に委員を委嘱することにより、設計者の意見が反映できるメンバー構成とすることができた。</li> <li>3. 木造化が可能な範囲の把握のために建築着工統計のオーダーメイド集計の制度を活用し分析を行う計画を立てた。</li> <li>4. 日本建築学会特別研究委員会の「中高層木造建築物の社会実装・一般化のための学術・技術課題特別研究委員会」にオブザーバーとして参加し、当小委員会の活動内容の情報提供と情報収集を行った。当小委員会の検討項目のうち「建物の木材利用が環境負荷に及ぼす影響（ベネフィット）の整理」及び「木造建築を推進するための情報・資料の整理」について、特別研究委員会で議論している内容が参考になることを確認した。</li> <li>5. 検討課題のうち「他構造（S造・RC造）と木造の地球環境の取り組みの比較」について、情報収集を開始した。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>問題や課題は特にないが、初年度の議論で方向性が定まったので2年度の成果に向けて活動を続けたい。</p>